

「平成 28 年度第 1 回 病院での在宅医療連携研修会」報告

地域包括ケアシステムの重要な要素である地域医療において切れ目のない医療提供体制を整えるべく、病院スタッフと在宅療養支援スタッフの相互理解推進のために下記のプログラムに沿った「急性期病院と在宅医療現場の連携」研修会を開催しました。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団助成による病院での在宅医療連携研修会

急性期病院と在宅医療現場の連携

日時：平成28年 5月 21日(土)
14:30～17:00 (開場14:00)
場所：刈谷豊田総合病院 診療棟5階 研修センター

主催 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
刈谷医師会 在宅医療サポートセンター
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

共催 刈谷市 高浜市 知立市

プログラム

参加対象：①特任従事者 病室管理職、医師、看護職、医療ソーシャルワーカー等
②在宅ケア従事者 在宅医、訪問看護師、ケアマネージャー等
定員：約100名

1. 病院の行う退院支援
演者：千田一嘉 医師
国立長寿医療研究センター
臨床研修企画室長
2. 在宅医療への導入
演者：石川亨 医師
つばさクリニック院長
刈谷医師会
3. グループワーク
「模擬退院時カンファレンス」
参加者全員

参加申込み・お問い合わせ先：
刈谷豊田総合病院
地域連携室 鈴木朱実
刈谷医師会在宅医療サポートセンター 清水美代子
電話0566-24-6001 FAX 0566-22-0055

開会挨拶：刈谷豊田総合病院副院長 田中守嗣先生
刈谷医師会会長代理 鈴木一正理事

プログラム内容

趣旨説明：国立長寿医療研究センター 和田忠志先生

講演：座長 刈谷医師会 鈴木一正先生

講演 1 「病院の行う退院支援」

国立長寿医療研究センター 千田一嘉先生

講演 2 在宅医療への導入

「退院カンファレンスのすすめ」

つばさクリニック 石川 亨先生

グループワーク：模擬退院時カンファレンス

石川先生のご講演では、刈谷豊田総合病院から在宅医療へ移行される患者の実態と退院カンファレンスの現状についてご報告され、今後は、①多職種による連携、②看取り時のバックアップ体制を整えていく

ことが在宅医療の推進には不可欠であるのご講話がありました。

グループワークでは、各グループに病院医師・刈谷医師会医師を各 1 名、病棟 Ns、退院支援 Ns または MSW、介護支援専門員、行政職員など多職種を配置し、10 グループに分かれ模擬退院カンファレンスをおこないました。グループ内の退院支援 Ns または MSW がファシリテーター役を務め、事前に KJ 法についても学習されておりグループワークの討議内容、時間配分等が非常に良く、有効なディスカッションができました。

医師会からの参加者

医師 10 名、診療所スタッフ 5 名、医師会管内薬剤師 5 名



和田忠志先生



鈴木一正先生



石川亨先生

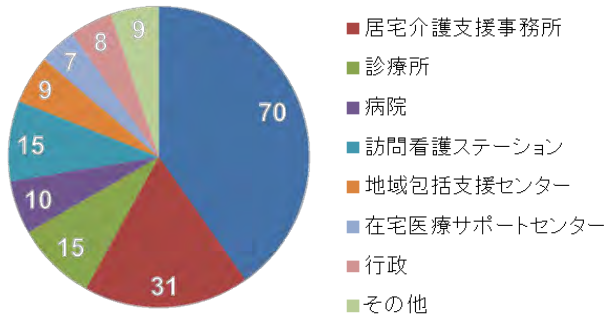
刈谷医師会在宅医療サポートセンターまとめ

急性期病院と在宅医療現場の連携

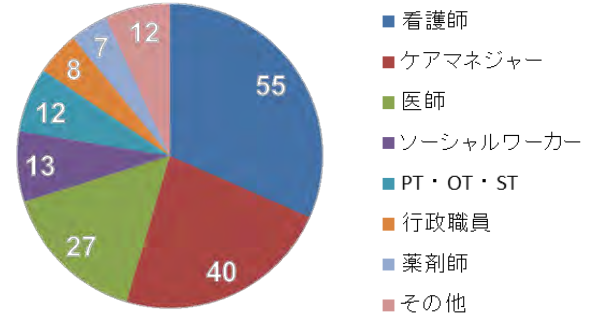


◆ 参加者内訳 ◆ (参加者数:174名)

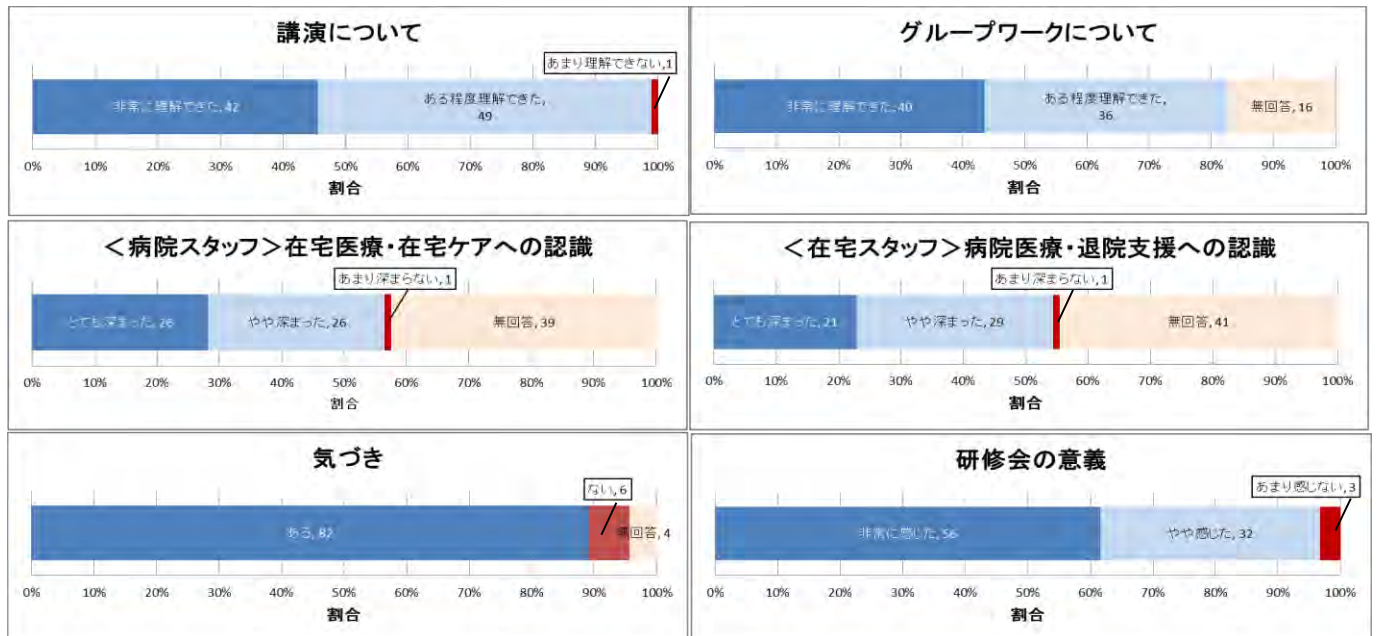
所属施設 (人)



職種別 (人)



◆ アンケート結果 ◆ (回答者数:92名)



... お詫び

研修後半のグループワークの定員に限りがあり、全ての方に参加していただくことができませんでした。今後も継続して多職種参加の研修会を企画してまいりますので、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

◆ 研修会に参加して ◆

多職種のグループワークで、急性期病院の医師と在宅医とともにディスカッションできたことは大変画期的で貴重な体験となりました。

医師を含めた各職種の立場からさまざまな見解やアイデアが出され、自分の考え方の幅を広げることができました。また、各職種それぞれが自分の仕事に誇りをもち、1人の患者・利用者に向き合っていることに改めて感動しました。

在宅療養支援に正解はありません。職種によって意見の偏りなどもあり、関わる人によって患者・利用者の人生がいかようにも変化し得る恐さも感じました。だからこそ、他職種同士が話し合い、人の意見を聴く柔軟性を持って支援が押し付けにならないように注意することが大事だと感じました。

今回の研修で医療と福祉、職種間の壁を取り除きかけをいただきました。ありがとうございました。

訪問看護ステーション 麦 作業療法士 及川 高志



ご講演では、基幹病院と地域の診療所で活躍されている先生方から、それぞれの立場や役割をどのようにとらえ取り組まれているのかを聴くことができました。

グループワークでは医師も含めて検討することができ、普段の研修では味わえないそれぞれの職種の考え方を共有できました。これからの連携に大きく結び付き有益な時間だと感じました。

刈谷市は、地域包括ケアシステムに関する学びが非常に盛んで感謝しております。その学びの場に、今回のような医師との交流が増えるとさらに風通しの良い連携が増えていくのではないかと期待しております。

今後ぜひ、このような場を設けていただけるとありがたいです。

さかきばら訪問看護ステーション 管理者 中野 香織



模擬退院カンファレンスでは、院内・院外からさまざまな職種が参加し、誤嚥性肺炎の症例をモデルケースにして、退院後の対応について話し合いが行われました。

入院中、病院内のスタッフ間で退院後について検討することは珍しくないのですが、患者さんを受け入れる側である地域のスタッフと直接話す機会は少なく、今回のカンファレンスの中で地域からの意見を聞き、直に話し合うことができ、非常に有意義な時間となりました。

刈谷豊田総合病院 呼吸器・アレルギー内科医
鈴木 嘉洋



研修会に参加して、在宅医療現場の声が聞けたことはとても新鮮で有意義でした。一つの事例に対して、医師・看護師・リハビリ科療法士・ケアマネジャー、行政の方など多職種で意見交換をする機会はこれまで皆無に等しく、とても勉強になりました。今後は退院後の患者背景を意識して業務に努めていきたいです。

薬剤師として残念に思ったことは、地域薬局の薬剤師の参加が少なかったことです。他職種とコミュニケーションがとれる良い機会だと思いますので、次の機会にはぜひ参加していただければと思います。

刈谷豊田総合病院 薬剤師 鈴木 秀明



研修に参加すると、どのようなサービスを取り入れるかという議論になりがちなのですが、「長男の妻は介護することについて本当はどう思っているのだろうか」「経済的にサービスを利用できるのだろうか」「急にあれこれサービスを開始すると患者や夫が戸惑うのではないか」といった患者・家族の立場に立った、社会的側面からのご意見が出たことが良かったです。

今後もこのような場を設けることで、地域全体のトランジショナル・ケア[※]の質を高めていけたらと思います。

刈谷豊田総合病院 医療ソーシャルワーカー 樋渡 貴晴

※ケアを受ける場と医療・介護職、患者・家族をつなぐケア